

2020  
Vol.4

# あおはにの風

特集

その人の望む「暮らしの場」を求めて

日中サービス支援型グループホーム「ブロッサム菜畑」

意思決定支援について

デリカテッセン・イーハトーヴより

2019年イベントの思い出

あおはにファーマーズ(自然学校)ニュース





## その人の望む 暮らしの場 を求めて



理事長 榊原 典俊

【働く、暮らす、余暇】青葉仁会での支援において日常的によく使われる言葉です。この3つの言葉が満たされているかどうかによって、人生の幸福度は大きく変わります。もしこれが満たされなければ、持続的な生活は勿論、生きていくことすら困難な事態になりかねません。しかも、これは通常の労働に参加できる人たちだけのことでもありません。そのような機会に恵まれない障害のある方々にとっても、人として豊かな人生を生きる上ではとても大切な要素となります。彼らが、雇用とまではいかなくても、就労支援や生産活動支援を通して得たお金をもとに、自分の望む暮らし方を選び、自分に合った生活を送る。そして時には好きな服を着てお洒落をして食事や余暇を楽しみ、その経験により社会での適応力を高め、親しい仲間と旅行に行ける様になるなど、充実した人生をおくる。【働く、暮らす、余暇】が適切に満たされることは、豊かな暮らしだけでなく利用者の成長や発達につながっていきます。



現在、利用者の住まいの場は、自宅で家族と、アパート等での一人暮らし、入所施設、グループホーム、日中サービス支援施設などに分かれています。特に、暮らしの場としての「日中サービス支援施設」は、言葉上からでは奇妙な印象を持たれる方も多いかと思えます。これは平成30年に新たに施行された制度で、「日中支援」

という言葉のイメージからは暮らしの場にはつながりにくいのですが、住居としての機能を備えると同時に、日中支援などホームでの日中活動をも支える、という二つの機能をもった施設だと思えば分かりやすいと言えます。「住まいの場」として、そこから就労や日中活動に出かけることも可能であれば、何らかの理由でそれが困難な方には、日中活動の支援の場として提供することができます。また、昼夜一体型の利用を考えると、より重度な障害のある方を対象にするとも言えます。その他に、この日中サービス支援施設にはショートステイを併設することが義務付けされていることから、地域の障害福祉

社課題に密接に対応する多機能型施設とも言えます。

この新たな制度のもと、青葉仁会は令和元年8月に日中サービス支援施設「ブロッサム菜畑」（奈良県生駒市）を開設しています。1ホーム10名ですが、2棟重なる連棟型で20名という規模は、これまで青葉仁会が整備してきた1ホーム7名以下で構成する通常のグループホームに比べてはるかに大きな規模の施設です。今後、この規模のメリットとして、高齢化や障害の重い方の利用を考えると、支援員や看護師など専門職員の配置がしやすくなり、対応ニーズへの支援の幅を広げやすくなります。

青葉仁会には、国のグループホーム制度以前に整備した入所施設「あおはにの家」と「萌あおはに」があり、各施設にはそれぞれ50名の方々が暮らしおられます。入所施設ではありませんが、私たちはその計画段階から「施設」というよりも「家」という住まいの場として整備しました。少人数のユニット（小舎）ケア、また

個室によるその方自身の暮らし方に重点を当てました。そこでの生活を通し、可能な限り彼らの生活スキルの向上を目指すことが、彼ら自身の生きやすさと、豊かな人生を目指す力になると考えられたからです。例えば、入所施設だからとして全員が一同に、一様の生活をするのではなく、小舎制の家（ホーム）ですから当然、朝食や夕食はそれぞれのホームの仲間と共にとり、夕食後にはコーヒータムと称した団欒の機会が設定されています。また自由に友達の部屋を訪ねたりして過ごすなど、彼らの生活環境は、両入所施設の設定当時から可能なかぎり現グループホームの生活スタイルの基本と同様になるよう配慮してきました。入所施設ですから、障害的には重度の方々の利用が多く、障害によるこだわりや感情抑制の難しい方もおられます。障害だけにかかわらず、人が集まれば予想外のもめごとは避けられないものですが、利用者の方々の暮らしの様子から見ると、ある程度の生活規模があることにより、人間関係を一人の方に集中

するのではなく、他の方々に分散したり、または相性の合う仲間も見つけやすく、熱くながちな関係を緩和してよい状況を生み出す効果もあります。また障害の場合、生活上で起こる問題は予想外というよりは、だいたいの範囲で予想がつきます。そのことを事前に対応することで、よりよい生活環境をつくる、このような入所施設のノウハウは現在のグループホームにも生かされています。

今日までの青葉仁会のグループホームの道りは、平成15年の「サンフラワーホーム」、「トマトホーム」の開設に始まります。その頃国は、ノーマライゼーションの理念に基づき、障がい者も地域で普通に暮らす施策として、入所施設からグループホームへの「地域移行」と「入所施設の削減」を打ち出したところでした。当時私はスウェーデンをはじめとする北欧諸国を巡り、幾つものグループホームを視察していました。それらの国ではかつて「コロニー」と呼ばれる入所施設で千人近い障がい者が暮らしておられ、中にはそれ以上

に大規模な施設もありました。「この状況は、国策による隔離である。故に、ノーマライゼーションの理念に基づき「コロニー」を解体している」との説明を現地で受け、地域生活の場となったグループホームをい



くつも視察させて頂きました。それから数年後に再び北欧を訪れた際には、結果的にはどうしても地域生活がニーズに合わないという方もおられ、かつての大規模のコロニーにも170人程の方が残っておられ



ました。その現実からみて、地域が施設かという一極的なものだけに決めつけるのではなく、利用者の方々にとって必要なライフステージを提供する必要性と、自分の望む生活に合わせて、入所施設でも地域生活でも選択をできることが大切なのだと思います。

日本では現在、入所施設の利用者数とグループホームの利用者数はほぼ同数になっており、今後のグループホームの整備次第では、必要に応じて選択することが可能になるかもしれません。いずれにしても今日、青葉仁会の入所施設利用の方々がグループホームへスムーズに定着されているのは、入所施設の支援を通しての生活スキルの向上により自立度が高まり、より

自由な暮らしを目指すことで、施設外でも何処に居てもやっつけていける力が育っているからです。

一方で、入所施設からグループホームに移行しなくても入所施設のこのままの暮らしが慣れていてよい、何よりもホームの友達と別れて暮らしたくない、或いは、入所施設だ何があってもスタッフが多くて安心で便利と、入所施設に長年入居されている方の中には住みなれた場所から離れがたいという側面もあります。

では、入所施設とは別の意味でグループホームでの生活経験において、何がその利用者の成長を支えているかというと、ホームでの生活スタイルだけではなく、隣は他人という濃厚な地域



環境の中で挨拶や礼儀などを通し、周りから認められて暮らすことでめばえる自信、または密接な社会環境の中で自分の必要性に合わせ自己

を上手くコントロールすること  
で可能性を実現する、その充実感ではないかと思えます。人生のステージ・環境が変わった事で

自信がついていくようです。同時にそれは生きる力がついたともいえます。その力は生活の幅を広め人生をも広げていきます。この様なところにグループホームの意義があると思えます。

また、グループホームは入所施設からの移行利用に関わらず、現在ご家族と住まわれている方の成長にとっても重要な要素です。自分の生活を家族の誰かにやっってもらつという立場から、自分でできる人になる、という転換は何処に行っても生活できる力が付くという事です。そのことは、旅行など「自分の望む生活」を染しむ、ひいては人生の幅が広がるということに繋がります。それは自立ということであ



もあり、生きる力が伸び、重要な人生の転換を意味します。自分という人格のある存在としての自覚が芽生え、大きな成長を遂げられる姿を私はたびたび見てきました。

その一方で、親の高齢化に伴い、同居生活が行き詰った末にグループホーム等の生活に転換される状況にも今直面しています。その状況下では親への依存度が高く、母子分離のハードルが高くなることは言うまでもありません。もちろん、親の愛情があつてのことであり、その愛情が双方の支えになっていることは充分理解しています。しかし、適切な自立の時期は障害の有無に関係なく誰にでも存在します。寂しくもあり、またそれまで家で過ごした時間が長いほど悲しいということも理解していますが、事前に計画を立て、段階的に進めていくことが双方の心の負担を減らす事にとって最も良いのではと思われます。

昨年、奈良市東部のすこやかネットワークに建設した7名定員のグループホーム「にこやかホーム」は、仕事と生活のオン・



オフの差を大きくとることで仕事の緊張感を解消し、メリハリのある生活を送れるようにとリゾート型を意識したものとしました。また奈良西部のいきいきネットワークに建設した「ブロッサム菜畑」では、より自立生活を望み、今後アパート等での二人

暮らしを目指される方には、外玄関とホーム内部からの二つの入り口を持つワンルームマンション仕様の部屋を、練習の場として2部屋整備しました。ホームの食堂も、生活している誰もがスタッフと顔を合わせる事ができ、孤立することのないようカウンター形式を採用するなど、障害に見合う配慮した生活環境整備をしています。

さらに令和3年、すこやかネットワークに建設予定の連棟型グループホームでは、それらの機能に加えて、災害時でも生活対応できるように電化製品等のライフラインを数日程度持続できるシステムも検討しています。災害等にも対応できる持続可能で安心な生活の質の確保は、障害のある方にこそ必要と考えていますが、同時に、我々の環境整備は地域の災害に対しても「誰ひとり取り残さない」という国連宣言でのSDGsにも対応でき、利用者の方々が活躍する青葉仁会になればと願っています。



入居されている方に  
感想を伺いました。

「新しい同居者との  
出会いがあった」



「ホームも大きいし、  
リビングも広い」

「同居者との  
団樂が楽しい」



一フロアに2つの浴槽とシャワールーム



一つひとつ壁紙が異なる居室



専用入り口がついた  
アパート感覚の部屋も



お部屋を  
案内中

「いつでも外出  
できるのが楽しい」

(小規模のグループホームからの  
転居者)

「人が増えたので  
賑やか、時に  
賑やかすぎるくらい」

「スタッフが  
作ってくれるご飯が  
おいしい」



担当スタッフが一人ひとりと向かえ合えるコの字型ダイニング

令和元年夏 新規オープン

## 日中サービス支援型グループホーム ブロッサム菜畑

こちらのグループホームには現在合わせて19名の方々が入居されており、元々、青葉仁会の別ホームに入居されていた方、初めて親元を離れてホームでの共同生活を始めた方もおられます。皆さん、日中はそれぞれのお仕事に通われていますので、朝、ホームを出る時間も違いますし、帰宅する時間も、お休みの日も違います。ですが、みんなが集まる夕食時は一緒に食事の用意をしたり、テレビを見たり、スタッフとお話をしたり、和やかに過ごされています。一日の緊張から解き放たれる貴重な時間です。部屋の掃除や衣類の洗濯などは、スタッフも手伝いながら行います。

ホームへの来客があると、入居されている方が自らスリッパを出してくれたり、居室を案内してくれたり、またはコーヒーを淹れてくれたり、ホームならではの「おもてなし」をしてくださる方もおられます。

# 意思決定支援について

生活支援部

副所長 鈴木康裕



意思決定支援に関して厚生労働省では「日常生活や社会生活に関して自らの意思が反映された生活を送ることが出来るように、可能な限り本人が自らの意思を決定できる支援を行う」と説明しています。青葉仁会の入所施設である「あおはにの家」・「萌あおはに」では、暮らしにおいて個別性に配慮した生活支援や自由外出などに、利用者本人の意思決定の尊重を心掛けています。しかし障害の重い方の中には、自分の意思を表すことが苦手な方も少なくありません。それらの方々には、日常に接している職員やご家族との協議において、ご本人に成り代わる「代弁者」として望まれるであろう支援を提供しています。それを「アドボケイト」と言います。

アドボケイトを行う上では当然、日々の支援だけでなくこれ迄の過程がされてきた様子や環境などにも考慮することが意思を尊重する上で大切な要素となります。しかし一方では、日常の支援の中では問題行動などに関する記録がどうしても増えていき、日々穏やかに過ごされている

部分での記録が薄れがちになります。従って、その方の良い部分や良い状況での意思が保たれている状態の要素、と思われる記録の在り方について考えさせられ客観的かつ正確に記録を残すことの大切さを感じるようになります。

意思決定は「意思表出」というものによってもなされます。それは「言葉だけでなく、様々な形で表出される意思をくみ取る」とる事ですが、何でもないような行動から意思をくみ取ることには本来に支援の難しさを痛感する事が多いです。言葉やジェスチャーの表出が難しい方の望みを理解し判断をしても、それが正しいかどうかの確信はなかなか持てるものではありません。また利用者の方の中には、したいこと、支援されたいことを聞き出さなくても経験に乏しく、そのことが意思決定のつまづきになっている方もおられます。

青葉仁会では、意思決定支援の一環として「自己選択」や「自己決定」の機会を設けています。たとえば秋まつりとして実施している「あおはに袖ノ川ランド」に

おいて、お金を使うことが難しい重度の利用者さんにも現金をもって参加していただくことなどを通して、日頃からの意思形成支援に努めています。「できないのでは…」、「失敗しては…」などのためらいもあるのですが、意思決定や意思表出につながるには、当たり前、普通の経験を欠いて語ることはできません。場合によってはお金を失くしたり、買はずぎたりすることも起こりますが、経験を通して自分にとってメリットがあるのはどれかと選べるようになるのも珍しいことではありません。私たちでも急に「ここに住みたいか」「何がしたい」などと聞かれてもすぐには答えられないものです。その様な経験に恵まれない環境で過ごして来られた方にとってはなお更のことです。

一方で「〇〇したい」と意思を表示されても周りが「とんでもない事になるからやめたほうがいいのでは」とリスクばかりを強調してしまうことがあります。これらのことはご家族や施設の支援者という固定化された人間関係によるものが多いと感

じています。特に施設内での固定化については、支援者として長年勤めている職員ほど「〇〇さんをよく知っている」という主観的な意見が支配することもあります。その様な状況に陥らないよう、様々な関係者との話し合いの機会を設け、本人の思いを「どうしたら実現できるか」多角的な視点で考えることが大切だと感じます。当然リスクを抜きにして意思決定に沿うというものではありません。本人にとって見過ごせない不利益を絶対に見過ごさないという配慮があつてのことです。

私たちの人生にも進学や就職、結婚など深刻な選択に出会います。時には周りの反対を押し切つて自分の意思により決定することもあるでしょう。その選択が成功か失敗であつたかは本人の問題です。しかし利用者さんの場合で言えば、どこかで意思決定が明確ではなく、結果的には最善の利益（善かれと思つて）で判断せざるを得ないところがあり、私たちは悩ましさを感じるところです。また、そのことがご本人の意思決定の機会を奪ってはいないかが気

になります。また関わつた支援者が、経験主義的な支援であればその影響を受ける場合もあります。支援は全体のチームワークが大切です。特に意思決定については、ご家族や支援者の意見だけが独り歩きすることなく、利用者さんと同じ目線で支援を行うことが前提であり、日頃からその目線と意識を持つて接することの中で、信頼性をもてる意思表出による意思決定になつていくことが大切だと感じています。



# デリカテッセン イーハトーヴが提供している福祉サービス 「就労支援事業」について

デリカテッセン イーハトーヴ 副所長 廣田 雄一



「デリカテッセン・イーハトーヴ」事業所（奈良市帝塚山）は、平成20年9月に開所し、現在は、

●カフエ・SORA班

●仕出し惣菜班（弁当製造・いきいきエリア事業所への昼食提供・いきいきエリア内のグループホームへの夕食提供等）

●食品加工班（リトルト商品や冷凍業務用商品の製造）

の3班で構成され、約40名余りの利用者さんがはたらいておられます。

提供している福祉サービスとしては、「就労継続B型支援事業」、「就労移行支援事業」、「就労定着支援事業」の3つのサービスがあります。3事業の概要について、説明させていただきます。

## 「就労継続B型支援事業」

事業所での必要な支援を受けながらの福祉就労を行っていただくことで、作業を通じて、仕事をする上での基本的な技術やマナーを身に付けていただくだけでなく、仕事におけるご自身の役割意識や

りがいを感じ、他の利用者さんとの関係性を構築し、日中活動の充実をはかっていく事業です。そして、工賃をお支払いすることで利用者さんの生活面や、将来設計の充実にもつなげてゆくことがこの支援事業の大きな目標であります。障害特性や能力、適性など様々な利用者さんが働いておられますが、皆さんがそれぞれに持っている力を発揮して日々の作業に取り組みています。

責任感とやりがいをもって働いておられる利用者さんの姿を見るにつれ、人にとつての役割意識ややりがいの大切さを日々痛感します。



## 「就労移行支援事業」

障害のある方が将来的に一般企業への就職を行うために必要な様々な支援を提供するサービスです。日中の各班での作業を通じて、仕事を行う上での技術はもちろん、働く上で必要な基本的なマナーやルールについて、例えば仕事上適切な言葉遣いについて、指示を受ける↓業務遂行↓業務完了の報告・不明な点を相談する等のいわゆる「報・連・相」の徹底などを訓練して頂いています。



それに加えて、月に1〜2回、一時間程度で『就職準備勉強会』を行い、「人はなぜ仕事をするのか? (その目的について)」、「上司や同僚との関係性について」、「友人との関係の中で気をつけたいこと (お金の貸し借りについて・携帯電話の使い方や一般的なマナー等) についての注意点等も含む」といった

た一般就労の先にも役立つ内容について勉強します。更には、「基本的なビジネスマナーについて」、「履歴書の書き方」、「面接練習」といった具体的かつ実践的な就職活動に向けてのカリキュラムを設け、技術を習得し、本人の就職活動に活かしていただきます。移行支援事業サービスを受けられている利用者さんは、日々の作業と就職準備勉強会を通じて一般就労に必要な一定の力を身に付けた後、就労移行支援員からの支援のもと、ハローワークへの登録や求人情報の収集などを行い、個別で就職活動を行っていくこととなります。

## 「就労定着支援事業」 開始

福祉サービス利用を経て一般企業に就職した利用者さんの中には、企業就労をしていく中で「職場の仕事上で困っていることがあるけれど、うまく職場上司に相談できない」、「仕事をしていく中で、生活の上での困りごとが起きた」、「いろいろあるが、この職場で長く働いていきたい」といった

た悩みや要望を抱える方もいらっしゃいます。そうした方々の要望に応え、企業とご本人との間で何か問題が生じた時に、間に入って双方の調整を図っていく、ご本人が長く職場に定着していくことを支援していくのが「就労定着支援事業」サービスです。

ご本人からの相談を受けることももちろん、障害者雇用を行っている企業側からの相談も受け、ご本人が長く職場に定着していくことが会社にとっても利益となるように、調整をはかることも就労定着支援事業の役割になります。現在、イーハトーヴでは1名の方が就労定着支援サービスを受けられており、就労定着支援員が入ったの面談や企業訪問を通じて支援を受け、現在も企業で活躍されています。

イーハトーヴで力をつけられ、希望した職場で長く活躍されている方の喜ぶ姿、そして、その活躍を企業側も喜んでいる状況を目の当たりにし、私は事業所職員としてのやりがいや喜びを感じています。



3月17日 春咲きコンサート



4月お花見



4月1日 新入式



5月3日 ゴールデンウィークBBQ



5月5日 グリーンウォーク



5月5日 新緑ライブ



8月11日 ブルーベリー収穫祭



8月12日 流し素麺



9月16日 BBQ

10月27日 杣ノ川ランド



2019年

# イベントの思い出



1月1日 初詣



1月14日 餅つき



1月20日 新年会



4月30日 ラスト平成パーティー



5月1日 ウェルカム令和パーティー



6月15日 グリーンフェスタ



7月19日 すこやか夏祭り



7月バスツアー



9月28日 オータムレク



10月14日 大飯めっちゃハッピー



11月2日 合同レクリエーション



12月19日 クリスマス会

## あおはにファーマーズ(自然学校)ニュース

AOHANI  
FARMERS



自然学校班では、春から夏にかけては有機のじゃがいもと玉ねぎなどの収穫、田んぼではコシヒカリとキヌヒカリを栽培しました。また、今年は新たに地元の方より田原地区の農地(1.5ヘクタール)を引き継ぎ、秋には4.5トンのコメの収穫がありました。さつまいも、じゃがいも、玉ねぎも、昨年比でほぼ倍の収穫がありました。夏恒例のブルーベリー園も、今年は多くのご来場があり、ブルーベリー摘みを楽しまれるお子様、ご家族で賑わっていました。ご来園、ご協力いただいた皆様ありがとうございます。

自然学校で栽培・収穫される無農薬・有機農作物の全ては、法人内のレストランや加工班へも納品されます。レストランのメニューはもちろん、日中事業所への給食や、

グループホームの夕食などの材料として使用され、あおはにご利用者さんの食を支えています。給食メニューにも「あおはにの大根」「あおはにの白菜」などと表記があり、利用者さんが楽しみにされています。

自然学校の田畑がある山里では、高齢過疎化率が高く、農業の担い手不足は深刻で、“のどかな”里山の原風景とは程遠いくらい荒れてしまっている場所もあります。そのような場所は、野生の猪や鹿などの獣害も多く、一度荒れてしまうと簡単には農地を元に戻すことができない状況です。そのような地域を少しずつではありますが、私たちの手で仕事(社会参加)として開墾を行い、田んぼや畑に戻すことで地域を生かし、資源を残してゆくことに繋がって行くと考えています。



## 表紙



### 編集後記

その方の思い描く人生を実現するために、意思疎通・形成・表出・決定などの段階的な支援で、私たちは日々、ご利用者さまと悩み、迷い、喜び、そして成長を共にしています。支援に正解というものはないとも言えます。何故ならば、誰しも個人差があり、物ごとの受け止め方が異なるからです。しかし、この「違い」が多様性を生み出します。世界が、また社会が豊かに進化してゆくには「多様性=ダイバーシティ」を活用できる力が私たちには必要です。国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)の理念「誰一人取り残さない No one will be left behind」社会を実現するためにも、私たちは一人ひとりを見つめ、寄り添ってゆくことがいかに大切か、日々の支援から学ばせて頂いています。

編集責任 榊原 安美



アート部門で制作したおうちの形の陶芸作品です。釉薬の加減でいろいろな表情を見せてくれます。

あなたを印象付ける手漉き和紙名刺  
ご注文を承ります

手渡す方と先様がほっこりとした気持ちでつながる、ぬくもりのある風合いの手漉き和紙名刺をぜひご利用ください。原料：雁皮・楮 特別な原料を使った和紙の作製も可能です。お気軽にご相談下さい。



カラー	裁断		耳つき	
	片面	両面	片面	両面
50枚	¥1,500	¥2,500	¥1,750	¥3,000
100枚	¥2,500	¥4,000	¥3,000	¥5,000

※データ作成料 初回500円/片面

●お問合せ・ご注文  
日笠ワークス TEL・FAX.0742-81-1071 higasa@aohani.com



## 社会福祉法人 青葉仁会

〒630-2152 奈良市柁ノ川町50番地の1 TEL.0742-81-0420 FAX.0742-81-0804  
 info@aohani.com http://www.aohani.org

### 奈良市東部エリア すこやかネットワーク



#### あおはにの家・萌あおはに

〒630-2152 奈良市柁ノ川町50番地の1  
 TEL.0742-81-0824 FAX.0742-81-0804

#### 水間ワークス

〒630-2151 奈良市水間町3020-3  
 TEL.0742-81-0864 FAX.0742-81-0829

#### 日笠ワークス

〒630-2173 奈良市日笠町396-2  
 TEL・FAX.0742-81-1071

#### 満天ひろば

〒630-2151 奈良市水間町3031  
 TEL.0742-81-1310 FAX.0742-81-1311

#### どんぐり山猫工房

〒632-0113 奈良市都祁馬場町 716  
 TEL・FAX.0743-89-1808

### 奈良市西部エリア いきいきネットワーク



#### デリカテッセンイーハートヴ

〒630-0064 奈良市帝塚山南4丁目11-14  
 TEL.0742-95-7227 FAX.0742-95-7228

#### ポラーノ広場

〒631-0061 奈良市三碓町2146-2  
 TEL.0742-45-8700 FAX.0742-45-8701

#### 生駒事業所

〒630-0243 生駒市徳口町2088  
 TEL.0743-73-8880 FAX.0743-73-5350

#### 地域支援部

〒631-0064 奈良市帝塚山南4丁目11-10  
 TEL.0742-81-8877 FAX.0742-81-8660



青葉仁会の各事業所から主要駅まで送迎バスを運行しております。(乗車時間約30分)  
 JR・近鉄奈良駅、富雄駅、東生駒駅、生駒駅、高の原駅、新祝園、州見台方面、学研奈良登美ヶ丘駅  
 天理駅、榛原駅、桜井駅、大和小泉、法隆寺、王寺方面、忍ヶ丘、住道、四條畷方面